

令和4年度きらめき未来塾「お笑い道場」
～落語を通して、ユーモアのセンスや自己表現力を身につける～

講師 社会人落語家 ^{やすのや}安野家 ^{にらくさい}仁楽斎（フリーアナウンサー）

参加者 県内の小学生4、5、6年12名

落語の基本的な要素を学び、こばなしは自分なりに工夫して表現できるように、大喜利のなぞかけや折句、あいうえお作文は発想力に富んだ発言ができるようになりました。最終回の「お笑い大会」では、子どもたちのユーモアあふれる発表内容に会場は大盛り上がりでした。

第1回：8月3日(水) 高座（舞台）で自己紹介してみよう

先生が自己紹介後、手本として一席披露した。仕草や声色の変化で観客を引き付けるコツ、扇子や手ぬぐいを用いた表現方法などを指導される。

子供たちも高座に上がって自己紹介し、扇子と手ぬぐいを使った一芸を思いつくままに披露する。



扇子や手ぬぐいで一芸

宿題としてこばなしを1つ練習してくること、なぞかけと折句のお題（夏、勉強）が出された。第2回、第3回の道場においても同様の宿題が出され、子供たちは自宅でも練習を重ねて表現を磨いた。

第2回：8月10日(水) こばなしや大喜利のおけいこで自分を表現しよう

なぞかけのお題「夏」、折句のお題「勉強」

先生から子供たちの高座名を発表。高座名は各々の好みや夢などを考慮して先生が名付けたもので、以降の道場では高座名で呼んだ。

子供たちが練習してきたこばなしを発表したところ、既存の作品だけでなく、日常の出来事から創作した作品まで様々であった。高座上では緊張してセリフを忘れることがあるが、台本通りでなくてもよいので演じ切るよう指導される。また、顔の向きをしっかりと変えて複数人を演じ分けること、扇子や手ぬぐいを用いたこばなしに取り入れるヒントなど、表現力を高めるアドバイスをされた。

なぞかけ、折句、あいうえお作文はコツをつかみだした様子。発表内容に感嘆の声や拍手が上がり始めた。



先生から高座名を発表



こばなしの指導風景

第3回：8月17日(水) おけいこの成果を確認して楽しもう

なぞかけのお題「自動車」、折句のお題「富山」

「お笑い大会」を前に、子どもたちはこばなしの表現力をさらに高めてきた。大喜利においては次々と手を挙げて発表し、発想が豊かになってきた。

第4回：8月21日(水) お笑い大会（発表会）

なぞかけのお題「学校に関するもの」、折句のお題「かつお」「わかめ」

子供たちたちは広いホールでも堂々と演じられた。

こばなしでは間の取り方や視線の配り方などをさらに工夫させることができ、観客から大きな笑い声が上がっていた。大喜利ではユーモアあふれる発言が連発し、活発かつ和やかな雰囲気であった。

観客から笑い声ともに大きな拍手が送られ、子供たちは表現する喜びや楽しみ、達成感を感じられたであろう。最後に先生から子供たちに「修了笑書」が手渡され、参加者全員が笑顔で記念撮影できた。



ユニークなこばなしを披露



盛り上がった大喜利